

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：21102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00995

研究課題名（和文）健康的社会環境変革への力となる子どもエンパワメント・イグニッション・プログラム

研究課題名（英文）Child Empowerment Ignition Program, a force for healthy social environmental change

研究代表者

古川 照美（Kogawa, Terumi）

青森県立保健大学・健康科学部・教授

研究者番号：60333720

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、子どもの頃から、自身の健康は社会環境であるこの地域でつくられているという意識をもち、健康で住み続けたい地域になるよう、積極的に関わっていかこうとする力となる、子どものシビックプライドを測定できる尺度開発を行った。中学生を対象にグループインタビューを行い、抽出されたカテゴリーをもとに尺度案を作成し、地方と都市部の中学生とその保護者を対象に調査を実施した。子どものシビックプライドは、日本人の成人のシビックプライドの概念とほぼ同じ概念として抽出された。自分の健康や親の健康、特にまわりの子どもの健康に気にかけることができることも、シビックプライドが醸成される可能性として示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

将来の変化を予測することが困難な時代の中で、子どもたちには、社会の変化に受け身で対処するのではなく主体的に向き合って関わり、よりよい社会環境と健康で幸福な人生を自ら創り出していく力の涵養が必要であると考える。子どもの頃から、自身の健康は社会環境であるこの地域でつくられているという意識をもち、健康で住み続けたい地域になるよう、積極的に関わっていかこうとする力となる、子どものシビックプライドを測定できる尺度の開発は、今後の健康的な社会環境の創生と子どもたちおよび周囲の住民たちの健康増進につながる活動の効果検証のツールとなり得る。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed a scale to measure children's civic pride, which is the ability to become aware from childhood that their own health is created by their social environment, the community, and to be actively involved in making their community a healthy place to live and work. Group interviews were conducted with junior high school students, a draft scale was developed based on the extracted categories, and a survey was conducted with junior high school students and their parents in rural and urban areas. Children's civic pride was extracted as a concept that was nearly identical to the concept of civic pride among Japanese adults. The ability to care about one's own health and the health of one's parents, especially the health of the children around them, was also suggested as a possible way to foster civic pride.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：子ども シビックプライド ソーシャル・キャピタル 健康増進活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

WHO は、「健康」は遺伝子や生活習慣など「生物学的要因」だけでなく、個人の所得や家族状況、人々とのつながりなどの「個人の社会・経済要因」と、国の政策や職場・コミュニティでの人のつながりの豊かさ(ソーシャル・キャピタル)を含む「環境としての社会要因」で決定されるという、健康が環境によりつくられる 10 のソリッドファクト(根拠のある事実)として「健康の社会的決定要因」を公表している。その中で、子どもをはじめとする健康に無関心な人々にも効果的な戦略で最も重要なのは社会環境の整備としている。

子どもはもともと健康であり、普段は健康に興味がなく、健康に対するモチベーションは低く、環境要因となる地域と健康の関係について考えることは皆無に等しい。そこで、子ども自身の健康は社会環境である“このまち”でつくられているという意識を契機に、恒久的に健康への関心を高め、健康で住み続けたい“まち”になるよう積極的に関わっていきこうとする力を培う必要があると考えた。そのためには、「自身の健康は社会環境である“このまち”でつくられている」という意識と、自身が“このまち”を構成する一員であり、健康で住み続けたい“まち”になるよう積極的に関わっていきこうとするシビックプライドを芽生えさせ、子どもたちが地域のソーシャル・キャピタルを醸成させ、地域の健康増進活動を担う人々のエンパワメントを高めるようなプログラムの開発が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、子どもの健康調査と生活習慣調査等を異なる地域で行い、地域特性を踏まえた上で、子どもが「自身の健康は社会環境である“このまち”でつくられている」という意識をもち、健康で住み続けたい“まち”になるよう積極的に関わっていきこうとするプログラム開発に示唆を得ることである。そのプログラムの効果評価のための子どもシビックプライド尺度を開発する必要がある。具体的には 1)子どもの生活習慣と健康状態の背景にある地域特性の同定 2)子どもシビックプライド尺度開発のための質的調査 3)子どもシビックプライド尺度開発のための量的調査をもとに方策を検討する。

3. 研究の方法

1)子どもの生活習慣と健康状態の背景にある地域特性の同定

(1)研究対象

A 県内 3 つの地域(B 町、C 町、D 町)において生活習慣病予防を目的とした健診を受けた中学 2 年生

地方(A 県 C 町)と都市(E 市)の小学 5、6 年生

(2)調査内容

健康状態については健診を実施し客観的に評価した。健診項目として身長、体重、体脂肪率、血圧値(SBp、DBp)、LDL-C、TG、肝機能(AST、ALT)、HbA1c、生活習慣は、朝食欠食、睡眠時間、運動時間、テレビ・ゲーム時間について、食事状況については簡易型自記式食事歴法質問票;BDHQ15y を用いた。

同様に生活習慣は朝食欠食、睡眠時間、運動時間、テレビ・ゲーム時間について、食事状況については簡易型自記式食事歴法質問票;BDHQ15y を用いた。

(3)分析方法

割合の差の検定に χ^2 検定、2 群間の差の検定に t 検定、3 群間差の検定に一元配置分散を用いた。さらに、学年、性別を共変量とした共分散分析を実施した。

2)子どもシビックプライド尺度開発のための質的調査

(1)研究対象

A 県 B 町の中学校の研究同意が得られた中学生 6 名。

(2)調査内容

尺度の構成要素を抽出するために 60 分程度のグループインタビューを行った。インタビュー内容は、属性や自分が住んでいる地域の好きな所など「町についての印象」、「地域の人々とのつながり」、「どのような町になったらよいか」、「健康について」である。

(3)分析方法

逐語録を作成し、シビックプライド尺度に関係した項目に着目しサブカテゴリー、カテゴリー化を行った。

3)子どもシビックプライド尺度開発のための量的調査

(1)研究対象

A 県内 B 町全て(4 つ)都市 F 市の 1 つの中学校に通う 1・2 年生

(2)調査内容

対象者の基本属性、シビックプライド尺度案、市民参加・社会的凝集性などである。

(3)分析方法

尺度案の回答は得点化し、各項目の回答数およびその分布を算出した。項目分析では I-T 分析、G-P 分析を行った。その後、主因子法、プロマックス回転により因子分析を行った。尺度の信頼性の検討を Cronbach の 係数、構成概念妥当性の検討には、市民参加、社会的凝集性の

得点との相関で確認した。

1) ~3)のすべての研究は、所属機関の倫理委員会の承認を受けて実施した。

4. 研究成果

1) 子どもの生活習慣と健康状態の背景にある地域特性の同定

A 県内 3 つの地域について

健診項目で、3 地域において有所見に差が認められたのは、男子で HbA1c、LDL-C、肝機能、肥満指標であった。女子では HbA1c のみであった。生活習慣について、男子ではテレビ・ゲーム時間、女子では運動時間に差が認められた。栄養素について男女ともに地域で差が認められたのは、植物性たんぱく質、マグネシウム、鉄、銅、カロテン当量、ビタミン K、食物繊維、ダイゼイン、ゲニステインであった。食品については、とうふ・油揚げ、緑黄色野菜であった。背景に、食生活を含む生活習慣の影響が示唆された。運動時間については、学校や地域としての取り組み状況やスクールバスの有無、冬期間の積雪の状況などが影響要因として考えられ、食生活については、文化的地理的背景の他に、「鍋条例」などの政策要因が影響していると考えられた。

地方(A 県 C 町)と都市(E 市)

朝食欠食については差はみられなかった。男女ともテレビ・ビデオ時間、ゲーム時間が地方で長く、勉強時間は都市で長かった。体重は男子で地方が重かった。男女とも地方では白米、都市ではパンが主食として食べられており、ラーメンは地方で摂取頻度が高かった。地方では緑葉野菜、男子ではにんじん・かぼちゃ、トマトの摂取頻度が低かった。地方では、みかんなどの柑橘類、その他の果物、季節によって食べ方がちがう果物など、食べない人の割合が高かった。みそ汁を飲まない人の割合は都市に多く、地方では男女とも緑茶や水の摂取頻度が低く、女子ではスナック菓子、チョコレート、コーラ等のジュースの摂取頻度が高かった。子どもの頃から米食であり、野菜や緑茶、水の摂取が少ないという特徴が認められた。A 県の子どもの肥満や糖代謝の問題の背景に、これらの食生活が影響している可能性が示唆された。

2) 子どもシビックプライド尺度開発のための質的調査

インタビュー内容から、13 のサブカテゴリー<>、7 カテゴリー【】が抽出された。「町の印象」は、<自分の居場所><快適感><地域肯定感><安心感><誇れるもの>の 5 サブカテゴリーから【地域愛着】【住民であることの誇り】の 2 カテゴリーが抽出された。「地域の人とのつながり」は、<地域の人との絆><地域の人への関心><地域での活動>の 3 サブカテゴリーから【地域とのつながり】【地域参画】の 2 カテゴリー、「どのような町になったらよいか」は、<受け継ぐもの><活動への意欲><活動参加へのきっかけ>の 3 サブカテゴリーから【伝統を受け継ぐ】【積極的な地域参画】の 2 カテゴリー、「健康について」は、<健康の大切さを認識><健康になるための行動>の 2 サブカテゴリーから【健康への関心】の 1 カテゴリーが抽出された。

3) 子どもシビックプライド尺度開発のための量的調査

IT 分析の結果、全ての項目において相関係数 0.5 以上であった。また、合計得点から上位群、下位群を抽出し、GP 分析を行った結果、すべての項目において有意差が認められた。探索的因子分析では、4 項目について基準関連妥当性をみるものとして尺度からは削除した。また、同じ意味でとらえられた項目についても削除した。その結果、40 項目で 5 因子構造が得られ、それらを尺度項目とした。尺度項目の内的整合性を検討するために Cronbach の係数を算出し、全体では $=0.71$ であった。妥当性の検討は、社会参加の頻度、社会的凝集性の地域信用、役立ち、愛着の得点との相関を検討した。子どものシビックプライドは、【地域貢献志向】【地域での存在価値】が日本人の成人のシビックプライドの概念とほぼ同じ概念として抽出されたと考える。その他に【地域文化風習の伝承】【地域住民への好意的感情】【地域住民としての展望】という概念が新たに抽出され、この概念は子どものシビックプライドの構成概念として必要な因子と思われた。住民との日常生活からの触れ合いや、その地域に伝わる伝統を通してその地域を知り、そのことに誇りに思うことは子どものシビックプライドを育むためには重要なことと思われた。また、自分の健康や親の健康、特にまわりの子どもの健康に気にかけることができることもシビックプライドが醸成される可能性が示唆された。

以上のことから、本研究結果により子どものシビックプライドの構成概念が明らかとなり、その構成概念は既存の尺度やそれを包括する項目で説明することができ、妥当性がある尺度であると考えられた。その地域に根付いている食習慣や生活習慣、政策を含む地域での規範などが健康をつくる社会環境となることや、子どもの健康はそのような社会環境と密接に関わっていることを意識付け、健康で住み続けたい“まち”になるよう積極的に関わっていきこうとする力を培うためのシビックプライドを芽生え、高めるよう、地域文化風習の伝承や人々のつながりなどに着目し、地域の特性を捉えたプログラムを構築する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 清水亮, 戸沼由紀, 鈴川一宏	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 地方と都市部における中学生の主観的健康観と生活習慣の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ヒューマンケア科学会誌	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 0件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 古川照美, 倉内静香, 谷川涼子, 戸沼由紀, 鈴川一宏, 吉池信男
2. 発表標題 健康的な社会をつくるためのシビックプライド尺度開発予備的研究 親と子の関連
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 戸沼由紀, 鈴川一宏, 吉池信男
2. 発表標題 尺度開発のための予備的検討 シビックプライド尺度開発のための質的研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸沼由紀, 古川照美, 谷川涼子, 倉内静香, 吉池信男, 鈴川一宏
2. 発表標題 シビックプライド尺度開発のための予備的研究 地方と都市の比較
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴川一宏, 古川照美, 倉内静香, 谷川涼子, 戸沼由紀, 吉池信男
2. 発表標題 地方と都市における主観的健康感に関連する社会・地域環境の質の比較
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 清水亮, 戸沼由紀, 鈴川一宏, 吉池信男
2. 発表標題 地方における保健推進員と一般住民のソーシャルキャピタルと地域環境の質の比較
3. 学会等名 第91回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古川照美, 谷川涼子, 倉内静香, 清水亮, 戸沼由紀, 吉池信男
2. 発表標題 中学生における心血管疾患リスクと栄養・食品摂取量の関連 青森県3地域の比較
3. 学会等名 第91回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 倉内静香, 古川照美, 谷川涼子, 清水亮, 戸沼由紀, 吉池信男
2. 発表標題 中学生における体組成・骨密度と生活習慣、栄養・食品摂取量の関連
3. 学会等名 第91回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水亮, 古川照美, 谷川涼子, 倉内静香, 戸沼由紀, 吉池信男
2. 発表標題 小学生における食事速度が身体に及ぼす影響について
3. 学会等名 第91回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Terumi Kogawa, Ryoko Tanikawa, Shizuka Kurauchi, Ryo Shimizu
2. 発表標題 The relationship between oxidative stress and mental health among adolescence
3. 学会等名 The 20th WPA World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古川照美, 谷川涼子
2. 発表標題 中学生の生活習慣病予防健診結果と食事状況の関連
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 清水亮, 戸沼由紀
2. 発表標題 中学生の骨密度と体格・生活習慣・食事に関する検討
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 鈴木一宏
2. 発表標題 地方と都市部における中学生の生活習慣の比較
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉内静香, 古川照美, 谷川涼子
2. 発表標題 小・中学生の血圧値と食塩摂取量、食品摂取量の関連
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川照美, 倉内静香, 谷川涼子, 鈴木一宏
2. 発表標題 地方と都市部の中学生における食品摂取頻度と肥満の関連
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川照美
2. 発表標題 青森県の子どもたちの健康と生活
3. 学会等名 日本ヒューマンケア科学学会第12回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸沼由紀,古川照美
2. 発表標題 小・中学生における貧血に関する項目と食習慣、生活習慣
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川照美,倉内静香,谷川涼子,清水亮
2. 発表標題 縦断調査による肥満と酸化ストレスの関連
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ryoko Tanikawa, Terumi Kogawa, Sizuka Kurauchi, Ryo Shimizu, Yuki Tonuma, Kazuhiro Suzukawa
2. 発表標題 Follow-up Survey of Obesity for 2 Years from Elementary school to Junior high school
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Terumi Kogawa, Sizuka Kurauchi, Ryoko Tanikawa, Ryo Shimizu, Yuki Tonuma, Kazuhiro Suzukawa
2. 発表標題 Follow-up Survey of HbA1c for 2 Years from Elementary school to Junior high school
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sizuka Kurauchi, Ryoko Tanikawa, Ryo Shimizu, Yuki Tonuma, Terumi Kogawa
2. 発表標題 Relationship between Serum Lipids and Lifestyle Habits in Healthy Junior High School Students
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川涼子, 古川照美, 倉内静香, 清水亮, 戸沼由紀
2. 発表標題 成長期にある児童生徒の体格と生活習慣の変化が骨密度に及ぼす影響
3. 学会等名 第90回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川照美, 清水亮, 谷川涼子, 倉内静香, 戸沼由紀
2. 発表標題 縦断調査による血圧と肥満指標の関連
3. 学会等名 第90回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 倉内静香, 古川照美, 谷川涼子, 清水亮, 戸沼由紀
2. 発表標題 縦断調査による肥満と血中脂質の関連
3. 学会等名 第90回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷川涼子、古川照美、倉内静香、戸沼由紀、鈴木一宏
2. 発表標題 小学生の肥満と生活習慣の関連
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古川照美、清水亮、戸沼由紀、倉内静香、谷川涼子
2. 発表標題 小・中学生における酸化ストレスと食事状況の関連
3. 学会等名 日本疫学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水亮、谷川涼子、倉内静香、戸沼由紀、古川照美
2. 発表標題 青森県の中学生における栄養・食事摂取量の地域比較
3. 学会等名 日本衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川涼子、古川照美
2. 発表標題 中学生の骨密度と体格、生活習慣、食事摂取状況
3. 学会等名 日本小児保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川照美、谷川涼子
2. 発表標題 中学生の生活習慣病予防健診結果と食事状況の関連
3. 学会等名 日本小児保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kogawa T, Tnikawa R, Kurauchi S, Shimizu R, Tonuma Y, Suzukawa
2. 発表標題 The relationship between lifestyle factors and mental health among junior high school students in Japan
3. 学会等名 World Psychiatric Association World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴川 一宏 (Suzukawa Kazuhiro) (10307994)	日本体育大学・体育学部・教授 (32672)	
研究分担者	戸沼 由紀 (Tonuma Yuki) (70531094)	弘前医療福祉大学・保健学部・講師 (31107)	
研究分担者	吉池 信男 (Yoshiike Nobuo) (80240232)	青森県立保健大学・健康科学部・教授 (21102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 亮 (Shimizu Ryo) (90588576)	青森県立保健大学・健康科学部・准教授 (21102)	
研究分担者	谷川 涼子 (Tanikawa Ryoko) (90783572)	青森県立保健大学・健康科学部・准教授 (21102)	
研究分担者	倉内 静香 (Kurauchi Shizuka) (60455730)	青森県立保健大学・健康科学部・講師 (21102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関